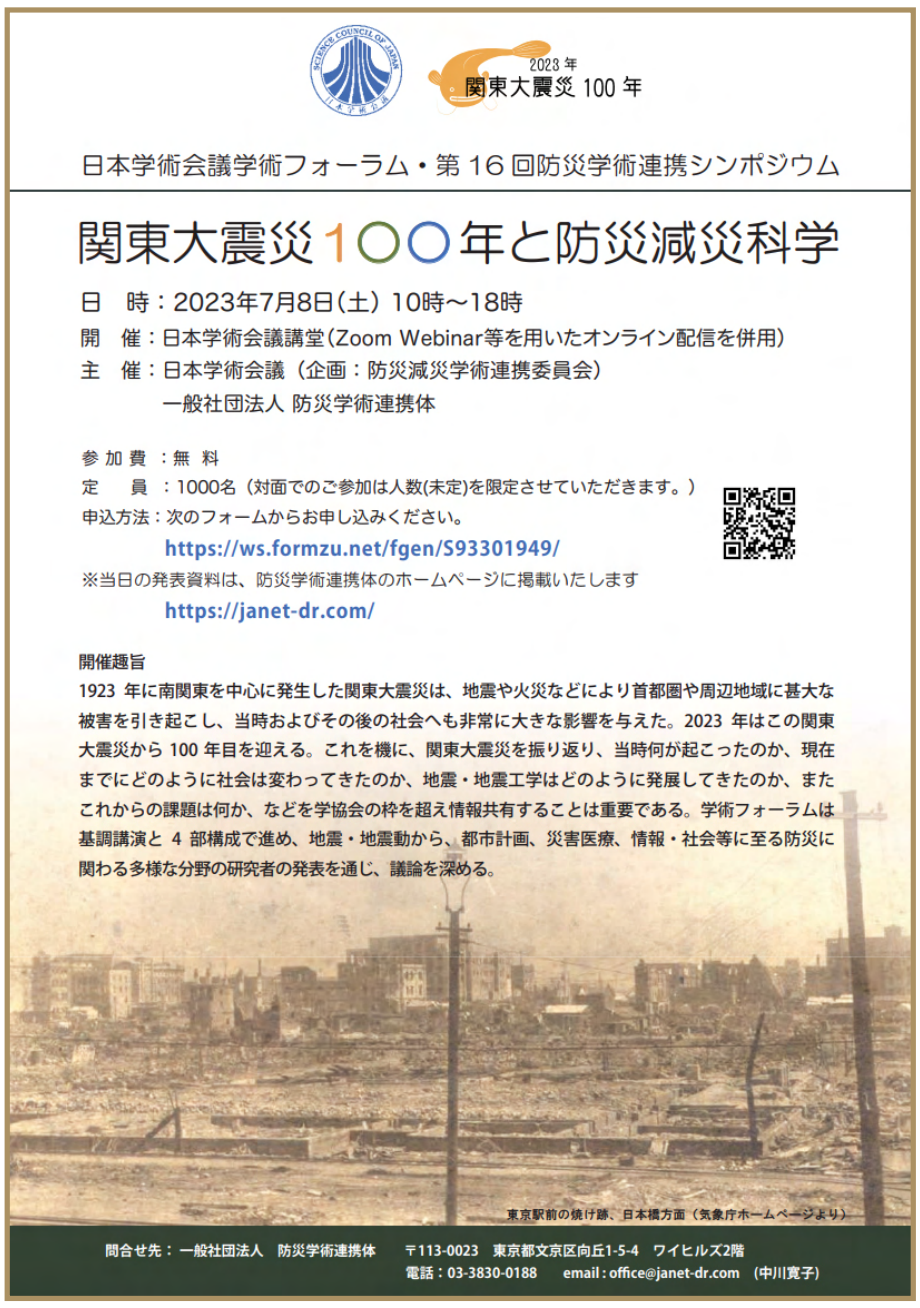
日本学術会議、一般社団法人 防災学術連携体が共催

様々な分野の専門家が集い、関東大震災を科学的に検証

防災の年
関東大震災から100年
大切なものを守るために備えよう！



2023年 関東大震災100年

日本学術会議学術フォーラム・第16回防災学術連携シンポジウム

関東大震災100年と防災減災科学

日　時：2023年7月8日(土) 10時～18時
開　催：日本学術会議講堂(Zoom Webinar等を用いたオンライン配信を併用)
主　催：日本学術会議（企画：防災減災学術連携委員会）
一般社団法人 防災学術連携体

参加費：無料
定　員：1000名（対面でのご参加は人数(未定)を限定させていただきます。）
申込方法：次のフォームからお申し込みください。
https://ws.formzu.net/fgen/S93301949/
※当日の発表資料は、防災学術連携体のホームページに掲載いたします
https://janet-dr.com/

開催趣旨
1923 年に南関東を中心に発生した関東大震災は、地震や火災などにより首都圏や周辺地域に甚大な被害を引き起こし、当時およびその後の社会へも非常に大きな影響を与えた。2023 年はこの関東大震災から 100 年目を迎える。これを機に、関東大震災を振り返り、当時何が起こったのか、現在までにどのように社会は変わってきたのか、地震・地震工学はどのように発展してきたのか、またこれからの課題は何か、などを学協会の枠を超え情報共有することは重要である。学術フォーラムは基調講演と 4 部構成で進め、地震・地震動から、都市計画、災害医療、情報・社会等に至る防災に関わる多様な分野の研究者の発表を通じ、議論を深める。

東京駅前の焼け跡、日本橋方面（気象庁ホームページより）

問合せ先：一般社団法人　防災学術連携体　〒113-0023　東京都文京区向丘1-5-4　ワイヒルズ2階
電話：03-3830-0188　email：office@janet-dr.com　（中川寛子）

シンポジウムでは 30 名を超える専門家の知見が発表されましたが、**「いつ起こるかはわからないが、必ず起こる」首都直下地震、南海トラフ地震などの被害を最小化するために**、これらの知見を役立てる必要があります。

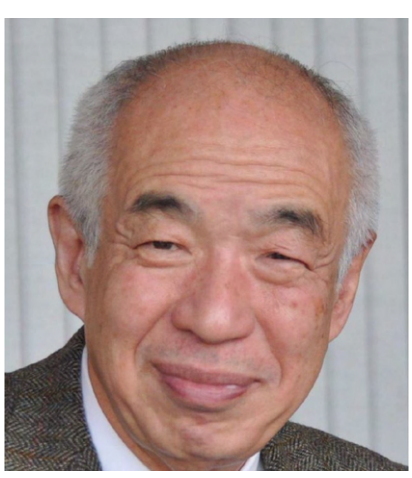
各セッションの発表テーマ、発表者は右表の通りです。

防災減災、災害復興推進に多くの知恵を集める

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、学者や専門家の考え方や行動に大きな変化をもたらせました。防災減災や災害復興推進のためには、「学会や専門領域の壁を取り外し、それぞれの専門分野の知識を出し合うことが必要だ」と、震災の2ヵ月後から30学会による学際的連携がスタートし、2016年1月に任意団体の「防災学術連携体」が結成され、2021年4月に「一般社団法人 防災学術連携体」として防災減災、復興推進に衆知を集める体制になっています。

現在、地震、津波、火山、活断層、地球観測、気象、地盤、耐震工学、耐風工学、機械制御工学、水工学、火災、防災計画、防災教育、救急医療、看護、環境衛生、都市計画、農山漁村計画、森林、海洋、地理、経済、情報、エネルギー、歴史、行政などの学者、専門家が所属し、関係する学会・協会は50団体近くになっています。このような学際的な動きを進めて対策を講じていくことが、災害の被害を小さくし、迅速な復興の実現につながります。

一般社団法人 防災学術連携体の代表理事で東京工業大学名誉教授の和田章先生の閉会挨拶では、「システムや社会は、設計者や賢い人が考えたようには、実際には動かない。必ず次の災害は起きてしまう」と締めくくりました。和田先生は、日ごろから「人間の知恵と欲望で科学技術は進歩し、世の中はどんどん便利になった。しかしそれは、災害などに直面すると失うものを多くしていることだ」とお話になっています。人間と社会の欲望と抑制の折り合いをつける方法を探す努力が、防災減災、復興の円滑な推進につながるということです。



▲防災学術連携体代表理事・
和田章東京工業大学名誉教授

4つのセッションで、大災害を多角的に分析

一般社団法人 防災学術連携体は、2011年12月に「第1回東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会――今後考えるべきハザード（地震動、津波等）と規模は何か」と題したシンポジウム開催を皮切りに、毎年2～4回のシンポジウムの開催やメッセージの発信を続けています。7月8日の日本学術会議との共催シンポジウム「関東大震災100年と防災減災科学」が39回目のイベントになります。

基調講演は、名古屋大学の武村雅之教授（地震学）の「1923年関東大震災では何が起きたのか」で、その後、次の4セッションで真剣な議論が交わされました。

●第1セッション**「今、関東で大地震が起こったら～過去100年間の社会変容と学術的発展からの展望」**
●第2セッション**「関東大震災がその後の都市づくりにどのような影響を与えたか」**
●第3セッション**「震災から日本の災害医療・救護は何を学び、100年でどのように発展したか」**
●第4セッション**「関東大震災以降、どのように情報通信技術が開発され、社会的な課題が残ったのか」**

「関東大震災 100 年と防災減災科学」主な発表者と発表テーマ

基調講演	**1923 年関東大震災では何が起きたのか**	武村 雅之 (名古屋大学)
第1セッション	**今、関東で大地震が起こったら~過去 100 年間の社会変容と学術的発展からの展望**	
	地震動特性	横田 崇 (愛知工業大学)
	施設被害 (建築系)	楠 浩一 (東京大学)
	施設被害 (土木系)	藤野 陽三 (東京大学)
	土砂災害	安田 進 (東京電機大学)
第2セッション	**関東大震災がその後の都市づくりにどのような影響を与えたか**	
	都市計画の視点から	中林一樹 (東京都立大学)
	都市防火の視点から	関澤 愛 (東京理科大学)
	生活者の視点から	立木 茂雄 (同志社大学)
	被災社会の視点から	大矢根 淳 (専修大学)
第3セッション	**関東大震災から日本の災害医療・救護は何を学び、100 年でどのように発展したか**	
	関東大震災における救護体制とその問題点	鈴木 淳 (東京大学)
	関東大震災の教訓 ~ 災害医療の観点から	眞瀬 智彦 (岩手医科大学)
	関東大震災における救護活動とそれから	酒井 明子 (福井大学)
	関東大震災以降の災害医療の発展	近藤 久禎 (DMAT)
第4セッション	**関東大震災以降、どのように情報通信技術が開発され、社会的な課題が残ったのか**	
	災害対策としてのリモートセンシング技術の利活用	作野 裕司 (広島大学)
	災害対応における GIS の利活用	大佛 俊泰 (東京工業大学)
	災害対応ロボティクスの現状と未来	松野 文俊 (大阪工業大学)
	災害発生時やその後における無人航空機の利活用	早川 裕弐 (北海道大学)
	効果的な災害対応を実現するための災害情報の定義	沼田 宗純 (東京大学)
	過去の教訓をふまえた災害対策・対応における情報科学 技術の利活用と課題	三浦 伸也 (防災科学技術研究所)